

株式会社ナガタ

■事業

水稻育苗用床土製造における設備導入による
低コスト化および生産性の向上・販路開拓

■対象類型

ものづくり技術

■導入機械装置

リバーシブルインパクター

西日本で初めて、
粒状の水稻用育苗培土を製造

【経営理念】

何事にも高い志で臨み、お客様、地域社会にとって信頼できる企業であり続けます

水稻の出来を大きく左右する「苗づくり」。その稲作の第一歩に大きな影響力を持つのが、培土だ。出雲市に本社がある株式会社ナガタは1977年、西日本で初めて粒状培土「サン・ソイル」の製造を開始。粉状に比べて透水性や保水性、通気性にすぐれている粒状培土は、生育面と作業効率の両方にメリットがある。同社は、主原料である真砂土と黒土の配合割合や水分調整、加熱温度などに研究を積み重ね、高品質の培土製造に力を入れてきた。

上質な培土を生み出している要素の一つが、厳選された素材だ。同社は、採取場のさまざまな層から真砂土を採取してブレンド。性質が異なる土質をバランス良く混ぜて均一にしたうえで、黒土やゼオライト、各種肥料を混ぜている。製造過程では3段階のふるいで選別して4ミリの粒に揃え、高温熱風殺菌を行ってカビや病気の発生を抑制するなど、品質管理には細心の注意を払ってきた。

処分していた大粒の原材料を
砕いて生かし、コストも大幅ダウン

しかしその徹底さゆえに課題だったのが、規格外のサイズにふるい分けられてしまう原料の多さだった。品質自体に遜色ないにも関わらず、4ミリより大きい粒状培土はこれまですべて処分。その量は、始めに混合した土の約半分にも及んでいた。「粒を揃えることで、培土の通気性、保水性、排水性の最適なバランスを生み出すことができます。規格外の土を混ぜることで品質が落ちることは絶対にしたくありませんでした」と永田数子社長。そこで粒の大きい土を細かく破碎できる「リバーシブルインパクター」を導入。既存の生産ラインに組み込むことで、大きいという理由だけで処分せざるを得なかった原材料を生かすことができるようになったため、原材料費を37・5%も削減、作業効率の向上にもつながった。



代表取締役 永田 数子



1

導入したリバーシブルインパクター



2



3

2 西日本で初めて製造し始めた水稻用粒状培土「サン・ソイル」

3 水稻用育苗培土 栽培試験

品質維持のまま実質的な値下げを実現
新たな事業展開も可能に

新設備導入後は従来の生産ラインに比べて処理量が格段に増えたため、改めて原料土を混合する際の加水量や殺菌時の温度・時間などを何度も調整。従来製品と同レベルの高品質の商品を完成させた。永田社長は、「正直ここまでこだわっているのはうちぐらいだと自負しています」と自信を見せる。人件費や運搬費、包装材などの価格上昇を理由に他社が値上げに踏み切る中、原材料のコスト削減を踏まえて商品販売価格を据え置き、実質的な値下げも実現した。

主力商品の作業効率が上がったことで、新商品の開発や新たな事業展開も可能になった。同社は今年、水稻培土で培った技術力を生かして、プランターやポット用の種まき培土、いちご専用培土、セル苗培土の3商品を新発売。また農業散布用ドローンの知識や技能を学ぶ教習施設の認定を受け、地域のスマート農業普及にも貢献しようとしている。「培土メーカーですが、農家を包括的に支援したいという一心でドローン事業も推進しています」。今後は商品PRにも力を注ぎ、中国地方周辺から関西、北九州まで販路を拡大していく狙いだ。

■Company Data

株式会社ナガタ



ナガタ本社社屋

代表者名：永田 数子
 設立年月日：昭和49年3月9日
 資本金：30,000千円
 従業員数：15人
 主たる業種：培土製造業
 本社：〒693-0022 島根県出雲市上塩冶町2842
 電話：0853-21-7000
 FAX：0853-24-1104
 URL: <http://nagata-soil.jp>